

〔植物自然充実度の分布〕

植物自然充実度の算出については、メッシュごとに植物群落ごとの面積を算出し、これに植生評価度の評点を与えて行った。その結果、概況は次のとおりである。

① 沿岸地帯

この地帯は、植林が多く、次いでコナラ・クリ林で、これらの植生評価度は、それぞれ「6」と「7」である。また、水田や畑地（植生評価度は、それぞれ「2」）もある。したがって、沿岸地帯の植物自然充実度を総合的にみると「7」以下の評価となる。しかし、島しょや岬端などには、タブノキ林やアカマツ林、クロマツ林などがあり、植生評価度の高い所がある。

② 平野地帯

この地帯は、水田と蔬菜畑などが大部分を占め、それに市街地が入る。これらの地域の植生評価はそれぞれ「2」と「1」であるので、自然充実度は「2」以下である場合が多い。ただし、自然湖沼に成立する水生植物群落がある所では評価度が高くなる。

③ 丘陵地帯

この地帯は、ほとんど極相林が伐採されてしまい、二次的に生じたコナラ・クリ林とこれを伐採してスギやアカマツを植えた植林とによって占められている。これらの植生評価度はそれぞれ「7」と「6」で、総合して「7」以下になる可能性がある。しかし、所どころにモミ二次林、イヌブナ二次林やモミ・イヌブナ林などの植生評価度「8」、「9」になるものもみられる。

④ 山地帯

この地帯は、植生評価度「9」のブナ林地域であるが、近年急速に伐採が進み、スギやカラマツの植林に変っている。したがって、植物自然充実度は「6」～「9」になるが、「9」の所は比較的少なくなっている。

⑤ 亜高山帯

この地帯は、ほとんど自然植生によって占められている。アオモリトドマツと亜高山落葉広葉低木林が広い面積を占め、植生評価度は、それぞれ「9」である。それに植生評価度「10」の中間湿原や火山荒原などが加わるため、植物自然充実度は「9」以上になる。

⑥ 高山帯

この地帯は、ハイマツ群落が成立する範囲で、ハイマツ群落は植生評価度は「9」である。この地帯には、雪田植物群落や高山ハイデ、風衝草原、火山荒原植生などの植生評価度「10」のものがある。したがって、この地帯の植物自然充実度は、総合的にみて「9」以上になる。

植生評価度	群
1	屋敷地
2	短基 蔬牧 水
3	桑落葉
4	伐モ
5	チカ スス 開
6	ハリ クロ アカ ヒノ ス カラ
7	オニグル 竹 コナ コナ ミズ
8	フササ タブ モミ イヌ 水生植
9	河ナ ヤブ タラ クロ アカ モミ イヌ イヌ アカ